

報道発表資料
平成 25 年 11 月 11 日
国立国会図書館
東北大学災害科学国際研究所

東日本大震災アーカイブ国際シンポジウム －未来をつくる地域の記憶－ 開催のお知らせ

国立国会図書館と東北大学災害科学国際研究所は、東日本大震災に関する音声・動画、写真、ウェブ情報等を収集・保存・提供しています。このたび両機関は、東日本大震災に関する記録・教訓を復興事業にどのように活用するののかについて検討し、収集・保存活動を拡大するために、平成 26 年 1 月 11 日(土)に「東日本大震災アーカイブ国際シンポジウム」を東北大学で開催いたします。

ハーバード大学エドウィン・O・ライシャワー日本研究所の「2011 年東日本大震災デジタルアーカイブ」および、2010 年と 2011 年にニュージーランドで発生した地震に関する記録を収集する「カンタベリー地震デジタルアーカイブ」について、それぞれ国際招待講演を行います。また、記録の利活用に関する国内事例の報告とパネルディスカッションも予定しています。

また 1 月 9 日(木)には、国立国会図書館東京本館でイベント「震災アーカイブに関する研究会－NZ カンタベリー地震と東日本大震災の経験から－」を開催します(別紙参照)。

○日時及び会場

日時：平成 26 年 1 月 11 日(土) 13 時 00 分から 17 時 30 分まで

会場：東北大学青葉山キャンパス(仙台市青葉区荒巻字青葉 6-6)

工学部・工学研究科センタースクエア中央棟 2 階大講義室

○参加及び参加申込み

(1) 定員：300 名

(2) 参加費：無料

(3) 参加申込み：参加を御希望の方は、以下の URL のシンポジウム案内にある申込みフォームからお申込みください。

<http://shinrokuden.irides.tohoku.ac.jp> (みちのく震録伝)

受付は先着順とし、定員に達した時点で終了します。

問い合わせ先：

東北大学災害科学国際研究所情報管理・社会連携部門災害アーカイブ研究分野 小野, 柴山, 佐藤
電話番号：022(795)4842 E-mail アドレス：archiveforum@irides.tohoku.ac.jp

○プログラム

●国際招待講演

「参加型デジタルアーカイブに向けた計画と展望」

アンドルー・ゴードン（ハーバード大学歴史学教授／エドウィン・O・ライシャワー
日本研究所 JDArchive プロジェクトディレクター）

「なぜ大災害をアーカイブするのか？自然災害に関するデジタル記録の保存及び無料 公開の重要性について」

ポール・ミラー（カンタベリー大学人文科学創造芸術学科長／CEISMIC カンタベリ
ー地震デジタルアーカイブ事務局長）

※逐次通訳付（英⇔日）

●東日本大震災アーカイブの経過報告

「国立国会図書館の取組」

松本保（国立国会図書館電子情報部主任司書）

「自治体における震災アーカイブとは」

柴山明寛（東北大学災害科学国際研究所准教授）

●事例報告

「中越メモリアル回廊の取組」

稲垣文彦（公益社団法人中越防災安全推進機構復興デザインセンターセンター長）

「農林漁業協同組合の復興への取組記録」

岡山信夫（株式会社農林中金総合研究所代表取締役専務）

「宮城県東日本大震災アーカイブズ連絡会議の取組」

坂田邦子（東北大学大学院情報科学研究科講師）

「宮城県図書館「東日本大震災文庫」の取組」

田中亮（宮城県図書館資料奉仕部震災文庫整備チーム主事）

●パネルディスカッション

「未来をつくる地域の記憶」

今村文彦（東北大学災害科学国際研究所教授） ※進行

稲垣文彦（中越防災安全推進機構復興デザインセンターセンター長）

岡山信夫（株式会社農林中金総合研究所代表取締役専務）

河村孝祐（三重県防災対策部防災企画・地域支援課専門主査）

坂田邦子（東北大学大学院情報科学研究科講師）

田中亮（宮城県図書館資料奉仕部震災文庫整備チーム）

水谷大（福島県いわき市立豊間小学校校長）

松本保（国立国会図書館電子情報部主任司書）



(参考)

2011年東日本大震災デジタルアーカイブ

<http://www.jdarchive.org/ja/home>

ハーバード大学エドウィン・O・ライシャワー日本研究所が構築している震災アーカイブ。「2011年3月11日の震災とその後の出来事に関するデジタル情報を整理、保存し、できる限り多くの方にとって活用可能な状態にすること。」等を使命としている。文書や写真、動画、ウェブサイト、ツイート等を検索できるポータルサイト。

カンタベリー地震デジタルアーカイブ

(CEISMIC Canterbury Earthquake Digital Archive)

<http://www.ceismic.org.nz/>

2010年9月4日および2011年2月22日にニュージーランドのカンタベリー地方で発生したニュージーランド地震に関する記録のデジタルアーカイブ。カンタベリー大学を中心に、国立図書館、行政省庁、博物館等によるコンソーシアムで運営されている。写真、動画、音声、文書、報告書、3Dパノラマ写真等、現在1万点のコンテンツが公開されている。震災直後だけでなく、復旧・復興の過程のものも収集しており、また、震災発生前後の比較のため、過去の写真等も収集している。

国立国会図書館東日本大震災アーカイブ（愛称：ひなぎく）

<http://kn.ndl.go.jp/>

国立国会図書館が運営する、東日本大震災に関するあらゆる記録・教訓を次の世代へ伝えることを目的としたポータルサイト。被災地の復旧・復興事業や、今後の防災・減災対策に役立てられるよう、公的機関、民間団体、報道機関等による記録・報告書や大学、学会、研究機関による学術研究の成果などを包括的に検索できる。

みちのく震録伝

<http://shinrokuden.irides.tohoku.ac.jp/>

東北大学災害科学国際研究所が産官学民の約120機関と連携して、東日本大震災に関するあらゆる記憶、記録、事例、知見を収集し、震災の実態解明および被災地支援、国内外への防災・減災対策への展開、国内外や未来に共有するプロジェクト。約10万点の震災記録を公開している。

(別紙) プレイメント開催のお知らせ

「震災アーカイブに関する研究会－NZ カンタベリー地震と東日本大震災の経験から－」

東日本大震災アーカイブ国際シンポジウムのプレイメントとして、1月9日(木)に国立国会図書館東京本館で震災アーカイブに関する研究会を開催します。ポール・ミラー氏(カンタベリー大学人文科学創造芸術学科長)をお招きし、2010年と2011年にニュージーランドで発生した地震に関する記録を収集する「カンタベリー地震デジタルアーカイブ」(GEISMIC Canterbury Earthquake Digital Archive)についてお話いただきます。

○ 日時及び会場

日時：平成26年1月9日(木) 14時00分から16時00分まで

会場：国立国会図書館 東京本館 新館 大会議室(千代田区永田町1-10-1)

国立国会図書館 関西館 1階 第一研修室(京都府相楽郡精華町精華台8-1-3)

※東京本館のシンポジウムの様子を関西館にテレビ中継

○ プログラム

- ・なぜ大災害をアーカイブするのか？自然災害に関するデジタル記録の保存及び無料公開の重要性について

ポール・ミラー氏(カンタベリー大学人文科学創造芸術学科長/GEISMIC カンタベリー地震デジタルアーカイブ事務局長)

※逐次通訳付(英⇄日)

- ・国立国会図書館の取組

松本保(国立国会図書館電子情報部主任司書)

- ・参加者全体による意見交換

○ 参加及び参加申込み

(1)定員：東京本館80名、関西館60名(先着順)

(2)参加費：無料

(3)参加申込み：①～⑥を明記の上、メールまたはFAXで下記の申込み先(国立国会図書館東日本大震災アーカイブ担当)までお申込みください。

①イベント名(「1月9日研究会申込み」)、②希望会場(東京本館または関西館)、

③氏名、④氏名ふりがな、⑤ご所属、⑥連絡先(FAX番号もしくはE-mailアドレス)

受付は先着順とし、定員に達した時点で終了します。

○ プレイメント申込み・問い合わせ先

国立国会図書館 電子情報部 電子情報流通課 東日本大震災アーカイブ担当

電話：03-3581-2331(代表) FAX：03-3581-0768

E-mailアドレス：hinagiku@ndl.go.jp